

【平成30年度】奨学金関係 一覧表							
	名称【団体名】	奨学生の資格	貸し付け月額	定数	備考	提出書類等	締切
2	高等学校等育英奨学資金 家計急変	①保護者が宮城県内に住所を有する。 ②主たる家計支持者等の失職または火災等の自由により家計状況が悪化し、緊急に奨学資金の貸し付けの必要が生じた場合。 ※学力及び、人物基準は適用されない。	自宅通学者 ¥18,000 自宅外通学者 ¥23,000 【貸与】		・返還あり ・既に奨学生である者や、予約奨学生として内定を受けている者は申請できない。 ※被災生徒奨学資金の奨学生を除く	①申請書 ②誓約書 ③振込口座登録依頼書 ④世帯全員の住民票 ⑤収入書類 ⑥世帯人員確認書類 ⑦家計急変の自由発生が確認できる書類の写し	【校内締切】 平成31年1月11日 (期日まで随時募集)
10	交通遺児育英会奨学金	保護者が自動車やバイクの事故など、道路における交通事故で死亡したり、重い後遺症害のために働けず、経済的に修学が困難な生徒・学生であること。応募者が生まれる前に保護者が後遺障害となった場合も含む(申込時25歳までの人) ※本会の規定する後遺障害とは、自動車損害賠償保障法施行令別表第1及び別表第2の第1級から第7級までの障害。(身体障害者福祉法の第1級から第4級がほぼこれに相当する。)	20,000～60,000/月 入学一時金20万～80万円 (1年次1回限り) 【貸与】		・無利子貸与 ・返還は最長20年 ・「海外語学研修」「奨学生の集い」など高校生向け制度あり(本会が費用負担)	①奨学生願書 ②保護者の所得に関する証明書 ③戸籍謄本 ④交通事故証明書 ⑤奨学金受取口座の「通帳」と「名義と口座番号」の部分の写し ⑥後遺障害の程度を証する書類	【校内締切】 平成30年1月18日
15	平成30年度石巻市奨学生	①石巻市に2年以上居住している方 ②学業優秀(評定平均3.5程度を基準)、品行方正及び身体健全であり、経済的理由により修学困難な方 ③他制度の奨学生ではない方、また、他制度の奨学生となる予定のない方	15,000/月		・貸与型 ・貸与終了の1年後から10年以内に返還(無利子) ・他奨学金との併用不可	①奨学生採用願 ②奨学生推薦書 ③住民票謄本 ④平成30年度市県民税(非)課税証明書及び資産証明書 ⑤奨学金預金口座振込依頼書(申請者本人) ⑥入学または在学を証明する証明書の写し	【校内締切】 平成30年7月24日
18	宮城県被災生徒奨学資金	保護者が宮城県内に住所を有し、東日本大震災により被災し、下記のいずれかの事由により修学が困難な状況にある高等学校等の生徒 ①生徒の居住する家屋(所有者を問わない)が全壊(焼)、大規模半壊(焼)、半壊(焼)又はこれに準ずる被災をした場合 ②主たる家計の支持者が死亡、行方不明又は重篤な疾病等を負った場合 ③主たる家計の支持者の勤務先等が被災したことにより、平成23年の収入が被災前年の収入の概ね2分の1以下に減少し、平成24年以降も収入が回復せず、平成29年においても、平成22年の収入と比較して3割以上の減収となっている場合(なお、収入の判断は、所得税が課税される所得により行う) ④上記の他、校長が特に必要と判断し、宮城県教育委員会が認めたもの *「修学が困難な状況にある」とは、次の場合であること。 ①「平成30年度高等学校等修学支援金」の支給を受けている。 ②「平成30年度高等学校等学び直しへの支援金」の支給を受けている場合。	20,000/月		・貸与型(ただし高校を卒業すれば、償還が免除されます) ・他奨学金との併用可、ただし、他県が実施する被災生徒奨学金と同様の奨学金との併給は認めない。	全員共通 ①奨学資金貸付申請書 ②誓約書 ③高等学校等育英奨学資金貸付金振込口座登録依頼書 ④被災についての申出書 ⑤世帯全員の住民票 *『住民票の除票』『戸籍の附票』等の被災時(平成23年3月11日現在)の住所が確認できるもの。 *保証人が世帯構成員以外の場合は、その方の住民票を添付のこと。 必要書類等は7月6日(金)に本校武道場で実施する説明会にて配布いたします。 その他、被災状況により必要書類が異なりますので、説明会で配布される資料をご覧ください。	【校内締切】 平成30年7月18日

〈新規募集の手続きの流れ〉
 ①担当者から申請に必要な書類をもらう。(生徒本人が受け取れない場合は、電話等でご相談ください)
 ②校内締切日までに、申請書類一式を担当者に提出する。
 ③担当が書類のチェックをし、送付する。(不備があれば、書き直し・再提出等していただきます)

〈継続申請の手続きについて〉

〈学校で発行できる書類〉
 ・在学証明書
 本校事務室で発行しております。(生徒が申請)
 ・学校推薦文

〈奨学金担当〉
 平成30年度担当者:中村功、千島真未